

オニト 交配

# MANAMUSUME

# 愛

まなむすめ  
紅小玉西瓜

# 娘



# KODAWARI

まな むすめ  
**愛 娘** MANAMUSUME



栽培の要点

高糖度で「シャキッ」とした肉質の硬肉系小玉

特 性

- 草勢はやや強く、葉の大きさ・ツルの太さ等は中程度。
- 低温・少日照時においても花粉の発生が良好で、着果が安定しやすく、裂果も少ない。
- 果重は春作1番果で2.5kg前後とやや大きく、肥大力に優れる。
- 果形は正球(低温期)～腰高(高温期)形で、ボリューム感があり、果形が狂うことも少なく、大玉になっても空洞果は発生しにくいので秀品率が高い。
- 果皮色は鮮緑色、やや細めの濃い縞が入り、薄くブルーム(果粉)が発生する。
- 果肉は桃紅色で、低温期にも皮際まで鮮明に発色する。
- 肉質はかなり硬く、高温期にも安定した糖度を発現し、収穫後の日持ちも良好。
- 早晚性は小玉スイカとしては中程度。(ハウス無加温5月上旬収穫で35日前後、一般地露地7月中旬収穫で30日前後、収穫前の試し切りは行うこと。)
- 「**ナント交配** 紅こだま」より2日程度成熟日数が遅い。

栽培のポイント

- 施肥に関しては、「**ナント交配** 紅こだま」よりもおとなしいため、窒素施肥量は「**ナント交配** 紅こだま」に比べて10～20%増肥を基準とする。
- 大玉系スイカに比べては30～50%窒素肥料を減肥とする。
- 仕立て方法は、基本的には3本2果どり、4本3果どり、5本4果どりとして、遊びヅルを1本残すことが望ましい。
- 硬肉系は低温少日照時に果実の大きさが揃いにくい場合があるので、特に各産地の早い作型では、4本以下の仕立てが良い。
- 高温期において、遊びヅルが無い状態での草勢低下は、うるみ果発生の原因となる場合があり、注意が必要です。
- 定植から子ヅル発生までの期間は、特に極端な乾燥や低温を避け、順調な活着・初期生育を心掛ける。
- 交配期が低い温度になる作型では、交配直後から2週間程は保温を重視し、幼果の順調な肥大を促す。

◎3～4月収穫の促成

(暖地・中間地のハウス加温・無加温)



- 定植は収穫予定の90日以前に行う。
- 大苗を定植し株間を広くする。
- 地温は18～20℃前後になるようにツル間と整枝方法を実施する。

◎5～6月収穫の早熟

(ハウス、大型トンネル)



- 播種～収穫まで135日内外となる大苗を定植すると良い。
- 3～4月の日照量の少ない時期の整枝はやや早めにする。
- 着果15日前後より昼夜間の換気を行い、昼間は35～40℃で最低温度は10℃内外の温度管理をするとより品質が良くなる。

◎7～8月の収穫

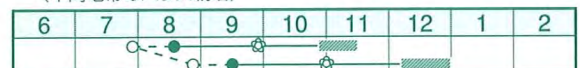
(冷涼地、高涼地のトンネル)



- 栽培期間は最も短く、定植～収穫まで70～80日以内です。(中間地)
- 3～4月収穫後の二期作栽培の場合は、4～5月定植で6～7月収穫となる。

◎10～12月の収穫の抑制

(中間地帯のハウス栽培)



- 抑制栽培で年内収穫とする。
- 8～9月定植は若苗を定植し、初期の生育を良好にする。
- 受粉時期よりトンネルを被覆し昼間の温度を35～40℃を保つようにする。

播種 ○ ● 着果 ○ ● 収穫

